3　　鳴く鹿への哀れみ　　　　　　　　　　語の省略・の・ば

今は昔、和泉式部、保昌に具して丹後へ下りたるに、「明日狩りａせむ」とて、者ども集ひたる夜さり、Ⅰ鹿のいたく鳴きたれば、「いで、ｂあはれや。明日死なむずれば、いたく鳴くにこそ」と心憂がりければ、「さ思さば、狩りとどめむ。よからむ歌を詠みｃ給へ」と言はれて、

　ことわりや　いかでか鹿の鳴かざらむ　Ⅱ今宵ばかりの命と思へば

さて、Ⅲその日の狩りはとどめてけり。

【本文チェック】

①　ａ～ｃを、ひらがなで現代仮名遣いに改めて書きなさい。

　ａ（　　　　　　）　　ｂ（　　　　　　）　　ｃ（　　　　　　）

②傍線部Ⅰ～Ⅲを文節に分け、 ｜ で区切りなさい。

　Ⅰ　鹿 の い た く 鳴 き た れ ば

　Ⅱ　今 宵 ば か り の 命 と 思 へ ば

　Ⅲ　そ の 日 の 狩 り は と ど め て け り

③②中の単語のうち、自立語をすべて〇で囲みなさい。

　Ⅰ　鹿 の い た く 鳴 き た れ ば

　Ⅱ　今 宵 ば か り の 命 と 思 へ ば

　Ⅲ　そ の 日 の 狩 り は と ど め て け り

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

１　和泉式部〔１〕（　　　　　　　　　）

２　集ふ〔２〕（　　　　　う）

３　今宵〔５〕（　　　　　　）

問２　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。

１　具す〔１〕　（自動詞）　①備わる

　　　　　　　　　　　　　　②（　　　　　　　　）

　　　　　　　　（他動詞）　①備える　②連れる・伴う

２　下る〔１〕（　　　　　　　　　　　　　）

３　心憂がる〔３〕（　　　　　　　）

問３　次の傍線部の意味として、現代語訳に入る最も適当なものを選べ。

１　定家は母の事なれば、哀れにもかなしうも、身をもみてめるはことわりなり。（正徹物語）

　　定家は（亡くなった）母親のこと（を詠んでいるの）だから、もの寂しくも悲しくも、身をもむようにして（その和歌を）詠んだのは（　　　）。

　ア　あり得ることだ　　　イ　もっともだ

　ウ　すばらしいことだ　　エ　無礼だ

　（　　　）

２　われ平家のさぶらひなり。あれは源氏、敵なり。いかでかもらすべき。

（平治物語）

　　私は平家の武士である。あの者は源氏（の武士であり）、敵である。（　　　）取り逃がすだろう（　　　）。

　ア　どうして～か　　　　　　　　イ　どのようにして～か

　ウ　どうして～か、いや～ない　　エ　なんとかして～よ

　（　　　）

【文法力 ✚】

問４　次の空欄を埋めよ。

１　（　　　　）形＋「ば」→訳（もし）～ならば・～（し）たら

２　（　　　　）形＋「ば」→訳１　～ので

　　　　　　　　　　　　　　　２　～（する）と・～（した）ところ

　　　　　　　　　　　　　　　３　～（する）といつも

問５　次の傍線部を現代語訳せよ。

１　疑ひながらも、念仏すれば往生すともいはれけり。（徒然草）

（　　　　　　　　　　　　　　　）

２　柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺（正岡子規）

（　　　　　　　　　　　　　　　）

３　生めらむ子、ならばが子にせむ。（平家物語）

（　　　　　　　　　　　　　　　）

４　いと幼ければ、に入れて養ふ。（竹取物語）

（　　　　　　　　　　　　　　　）

【古典常識】

問６　和泉式部は平安時代中期の女流歌人であり、一条天皇の中宮であるに仕える女房であった。娘の小式部内侍も歌人としての才能を発揮した。

　　　和泉式部と同じく、彰子の父である藤原道長に見いだされ、彰子のもとで女房として仕えた人物を次から一人選べ。

ア　紫式部

イ　清少納言

ウ　菅原孝標女

　（　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　　ａ＝せん　ｂ＝あわれ　ｃ＝たまえ

②③　Ⅰ＝ 鹿 の ｜ いたく ｜ 鳴き たれば

　　　Ⅱ＝ 今宵 ばかりの ｜ 命 と ｜ 思へ ば

　　　Ⅲ＝ そ の ｜ 日 の ｜ 狩り は ｜ とどめ てけり。

問１　１＝いずみしきぶ　２＝つど　３＝こよい

問２　１＝連れ立つ　２＝都から地方に行く　３＝嘆く

問３　１＝イ　２＝ウ

問４　１＝未然　２＝已然

問５　１＝念仏すると（いつも）　２＝食べると

　　　３＝もし女の子ならば　　　４＝幼いので

問６　ア

【現代語訳】

問３　１　定家は（亡くなった）母親のこと（を詠んでいるの）だから、もの寂しくも悲しくも、身をもむようにして（その和歌を）詠んだのはもっともだ。

　　　２　私は平家の武士である。あの者は源氏（の武士であり）、敵である。どうして取り逃がすだろうか、いや取り逃がさない。

問５　１　疑いながらでも、念仏すると（いつも）極楽往生できるともおっしゃった。

　　　２　柿を食べると、鐘が鳴るようだよ、法隆寺の。

　　　３　生まれる子が、もし女の子ならば私の子にしよう。

　　　４　たいそう幼いので、かご（の中）に入れて育てる。

問６　　紫式部は中宮彰子に仕え、『源氏物語』を書いた。清少納言は同じ一条天皇の中宮である定子に仕えた。菅原孝標女は二人より四〇年ほどのちに生き、『更級日記』を書いた。